

カバノモグリバエ

カンバ類やハンノキの生きた木の樹皮下を潜るウジムシ（幼虫）。最大長約20mm.

食べ痕は材内に茶色の筋となって残る。木を切ったときに断面に斑点として現れ、ピスフレックと呼ばれる。ピスフレックは幹横断面では年輪に沿った細長い形（最大長約4mm）、縦断面では縦筋となって現れる。大きなピスフレックは地際近くに集中する。ウダイカンバでの発生はごく少ないようである。



1. ピスフレック，幹横断面。1990/2/5.
新得町，シラカンバ。



2. 幼虫の潜った痕。1991/7/31。新得町。
シラカンバ地際近く，樹皮を剥がしたところ。



3. 幼虫，体長19mm。2の木。



4. 雌成虫，体長4mm。1990/6/4。
新得町，シラカンバ，羽化トラップで採集。

【学名】 *Phytobia betulae*

【分類】 ハエ目 (Diptera) ， ハモグリバエ科 (Agromyzidae)

【分布】 北海道；ヨーロッパ。

【特徴】

シラカンバやダケカンバにピスフレックを作る昆虫には他に[ミノドヒラタモグリガ](#)がある。この種のピスフレックは断面が直径1～2mmの円形で，幹や枝の随近くに発生する。

【生態】

年1世代のようである。

成虫は6月に出現する。伸び始めた若い枝に卵を1個ずつ産む。

幼虫は最初、樹皮下を地際に向かって直進する。地際部では上下に樹皮下を食い進みながら成長する。このため、大きなピスフレックハ地際近くに集中する。7月下旬頃には樹皮に穴を開けて外に出る。土中で蛹になり越冬すると思われる。

【被害と防除】

木を伐倒した際に断面に多数のピスフレックが発生し驚くことがある。

カバノモグリバエのピスフレックはたいてい地上高1m以上ではほとんどみられない。ミノドヒラタモグリガのピスフレックは随の周辺に限られる。このため、地際近くや随の周辺を避けて材を利用する限りは問題とされない。

なお、ピスフレックは材の強度にはほとんど影響ないといわれている。特異な外観を呈すので工芸的な利用も考えられる。

【文献】

1958. 山林暹. 木材組織学. 森北出版, 東京.

1983. 田中潔, 松崎清一. ダケカンバ材のピスフレック. 日本林学会誌, 65: 262-267.

1984. 久万田敏夫. 広葉樹のピスフレック形成昆虫. 北方林業, 36: 120-129.

*1990. 原秀穂, 矢萩利雄. シラカンバのピスフレック. 北方林業, 42: 219-224.

*1994. 原秀穂. シラカンバのピスフレック形成昆虫カバノモグリバエの生活史. 第42回日本林学会北海道支部論文集: 162-164. (生態)

*の文献は北海道立林業試験場ホームページの「北海道立林業試験場・研究成果文献データベース」で見ることができます。

北海道立林業試験場・緑化樹センター

カバノモグリバエ hamoguri/kabamogu/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/9/29.

pithf.jpg, senko.jpg, yochu.jpg, seichu.jpg

「写真1～4」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1990-1991.

「写真の成虫の種名の決定」

笹川満廣京都府立大学名誉教授, 1993.